

義肢装具体験イベント (講演会)開催報告書

vol.08
2021.10

第8回

『義肢装具体験イベント
(講演会)』

第8回となる「義肢装具体験イベント(講演会)」を、2021年9月25日(土)に東京都中野区立南中野中学校にて開催いたしました。

当初、南中野中学校として二回目となる義肢装具体験イベント開催の要請がありました。が、多数のスタッフ動員が必要とされる為、コロナウイルス感染者数の状況を踏まえ生徒とスタッフの感染予防対策の観点から、当協会では接触型のイベント開催は適切でない判断しました。

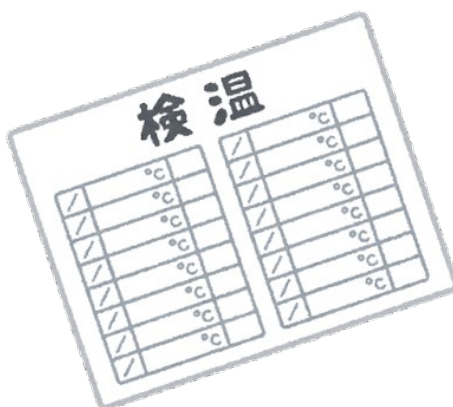
しかしながら、中学校から「障がい・障がいのある方々を支援する義肢装具士」について、生徒の見識を深めたいと強い開催要請があった事から、非接触型の講義と義肢装具の展示の実施といたしました。

講演会プログラム

講演会のプログラム内容は、「義肢装具士による講義」と「義肢装具の展示」としました。

コロナウイルス感染予防対策の観点から、学校内で広い会場である多目的室を講演会場とし、1・2年生の総勢192名の生徒を3グループに分けてもらい、講演は70名弱を対象に会場内で密にならない状況にて1時限の時間で行われました。

(公社)日本義肢装具士協会 障がい者/パラアスリート/義肢装具士啓発WG(以下:PO啓発WG)から3名が、スタッフとして当日運営を対応し、講師・講演進行補助・写真撮影・会場設営及び撤収などを行いました。



講義「障がいのある方々と義肢装具士の関わり」

義肢装具士の立場から障がいについての概要、義肢装具の説明や義肢装具士の仕事に関して、多くの写真や動画を用いて約40分間にわたる講義を行いました。

また、講義中の随所にて説明している義肢装具の実物を補助スタッフが掲示することで生徒達の理解をより促すことを試みました。講演後の質疑応答では、義肢装具士への志望動機、義肢装具士としての働き甲斐、年収などの質問がありました。



<講義の様子1>



<講義の様子2>

義肢装具展示品閲覧

講義において画像での紹介だけでなく、少しでも印象に残るようにと15種類の義肢装具を展示し閲覧してもらいました。生徒とスタッフの接触を出来るだけ少なくするために、スタッフによる説明の代わりに主要なものには解説プラカードを添えました。

感染予防の観点から実際に手に取って、質感・重量感などを感じてもらうことは出来ませんでしたが、そのぶん生徒が細部まで熱心に閲覧する姿が印象的でした。



<義肢装具展示品>



<展示品を熱心に閲覧する様子>

総括

今回の講演会ではこれまでの義肢装具体験イベントとは異なり、義肢装具の装着や手に取ることなどは出来ませんでした。開催後のアンケート結果から全体の約95%から満足しているとの回答を得ました。この割合は、これまでの体験イベントと変わらないものでした。

また、障がいについて(97%)、義肢装具について(93%)、それぞれ理解を深めたとの回答を得たことは、今回の講演会では日頃の授業や日常生活では得られることが出来ない、新たな情報を提供することが出来たものと推測されます。

今回の講演会のように非接触型のイベント形式であっても、障がい・障がい者、義肢装具や義肢装具士に関する情報を、多感な若い世代に発信して行くことは本協会として重要な役割と考えています。

また本WGでは、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたとしても、対面に限らない情報提供方法が今後の課題であると考え、教育機関の授業などで活用出来るコンテンツについて検討していきたいと考えています。

アンケート(生徒の記述感想) 「自分が社会に対して力になれること」を含む

- ・義足をしている人が、町で困っていたら、声をかけて助けるなどの思いやりの心を持つ。
- ・障害を抱えている人を否定するのではなく理解することを広めたい。
- ・義手や義足を身につけている人がいたら手伝っていきたいです。
- ・周りに困っている人がいたら助ける。義足の方が歩きスマホで事故に遭ってしまったら大変だから、歩きスマホをなくしたい。
- ・義足の人などは、私たちが1人でできることでも、できないことがあると知ったので、もし何かが出来なく困っている人がいたら、手伝ってあげたいと思った。
- ・義足を使用している方のお話を聞き、まだまだ不便な所や、大変なことがある事を知りました。私はもっとバリアフリーについて考え、誰もが暮らしやすい社会にしたいなと思いました。